九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[3_12] 図書館情報 : 九州大学附属図書館月報 : 3(12)

https://doi.org/10.15017/19504

出版情報：図書館情報. 3 (12), pp.65-74, 1967-12-25. 九州大学附属図書館
バージョン：
権利関係：

九州大学附属図書館月報

図書館情報

The Kyushu University Library Bulletin Vol. 3, No. 12 Dec. 1967

退任のごあいさつ

北川　敏男

昭和36年12月から早くも6か年，わたくし，二期にわたり館長の重任をけがして参りましたが，この12月22日をもって，任期を満了し，退任させていただくことになりました。その間，学内各位におかれましては，図書館商議委員会を中心とする，新館建築委員会をはじめ種々の委員会にご参加していただき，学内全部局からのご協力を煩わし，ご支援をいただきましたこと，また，遠城寺前学長の深いご理解のもとに，予算経理委員会はじめ，事務当局のご厚意あるご配慮をいただきましたこと等，はとくに感銘に存じています。ここに厚く御礼申し上げたいと存じます。

こうしたご支援，ご配慮にもかかわりませず，私の微力不敏のため，ご期待の万分の一にも添いえなかったことを思い，まことに申訳なく存じています。数多くの問題がまだ未解決のままに残されています。しかし，水野新総長のもとに，伊藤新館長をお迎えして，強力清新なご指導のもとに新しいスタートを切ることになりました。さしあたり多くの困難もありましょうが，しかし必ずや洋々たる前途が展開できるであろうことを確信し，退任できますことは，私のひそかに喜びとするところであります。

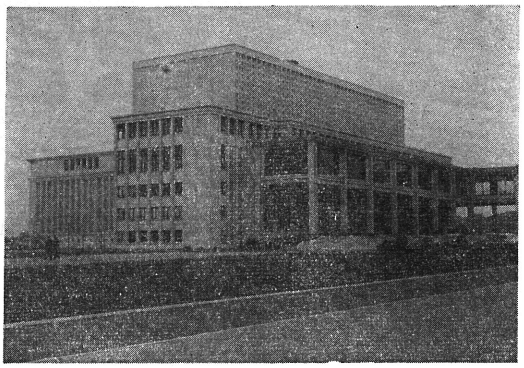
とは申しましても，附属図書館がその任務を果してゆくうえには，全学各位のよりいっそうのご理解とご支援が必要であろうかと存じます。この機会に，改めて，図書館のためによりいっそうのご後援をあたえられますよう私からもお願い申したいと存じます。

なお，全国国立大学図書館長会議，国立七大学附属図書館協議会，文部省大学図書館視察委員会会議，文部省大学図書館施設研究会議，さらには日本学術会議図書館関係の委員会等におきまして，いろいろご示教いただきました各大学図書館長はじめ，いろいろお世話いただきました文部省当局，全国図書館関係の方々に対し，厚く御礼申し上げますとともに，九大図書館の発展のために今後ともよろしくお願いいたします。

六年間の館長生活から，わたくし自身，多少は学び得させていただきましたことのありますことを有難く存じています。申すまでもなく，図書館の仕事は，研究と教育への奉仕ということでありますが，人のために洗足するという気持をもって働くのを本領とすべき職場であることを教えられました。全学図書系職員各位は，地味なるがゆえに尊いこの任務が皆様方の肩の上にあることを銘記し，今後ともいっそうのご研鑽（さん）を積みかさね，時代の進歩におくれずに，学内外の期待に添い，任務を全うしますようお願いいたします。では皆様さようなら。

カン大学図書館

城野節子



カン大学図書館
（上屋は書庫，後方の建物は階段教室）

私が留学したカン大学は，その他のフランスの大学とは非常に異なっていることを，まずあげねばならない。留学した年から数えると，すでに10年の月日が流れている。昨年の夏，スイスのジュネーヴでひらかれた学会に出席したおり，再び訪れる機会があったが，町の様子には留学当時とは，非常な変貌があった。一般にフランスのみならず西欧の都市が，発展途上にある日本のそれとくらべてほとんど変らないことは，周知のことであるだけに，この町の特色を語らねば，カン大学の特質も理解してもらえないと思われる。

パリから西に汽車で240キロ，2時間半ばかりのところに，ノルマンディーの中心都市カンCaen がある。第2次大戦の末期，1944年の連合軍の敵前上陸の際，最大の被害をうけ，町の6割以上が灰燼（じん）に帰したが，私が滞在した当時は，新しい町づくりが盛んにおこなわれていた。15世紀，1432年に創立されたカン大学も，もちろん，建物などすべて完全に崩壊したのである。しかし戦後ただちに，町づくりよりも先に，全く新しくフランス建築技術の粋をあつめて再建された。フランスの国立大学の中でも，その建築様式の斬（ざん）新さ，研究施設と学生のための福祉施設の完璧（ぺき）さ，そしてゆるやかな斜面を利用したその敷地の広大なこと——敷地内に校舎と学生寮が点在するのはフランスでは他に見られない——など，すべてに特質をもった大学なのである。

大学図書館は，最も理想に近い姿で，大学の建物の中でもまっさきに建てられた。私が滞在していた10年前は，大学構内にまだ建築途中の足場のある建物があったが，昨年再び訪れたおりは，もう完全に整備を終っていた。

図書館の特色は，なによりも書庫にあった。いまでこそ上屋に書庫をもつ図書館は珍しくないが，当時はカン大学のなによりの誇りであった。書架の総延長距離が30キロメートルにおよび，百万冊を収納する書庫が白亜の上屋をなしている。学生の閲覧室は2階にあり，総ガラス張りである。（その下はアーケードになっていて，絵の展示などが行なわれる。）ドアを開けてはいると，左側が学生用閲覧室，とにかく広々としている。右側はカードその他の検索室。図書貸出係など，図書館の係員との接触の場所は，中央部の奥に位置していて，両側とはすべてガラスでしきられている。閲覧室の中の壁側には辞書類が自由に引き出せるように置かれているが，学生証明書，あるいは身分証明書さえ見せれば，貸出し制限は非常にゆるやかである。3階は教授や研究員用の閲覧室がならんでいるが，すべてスペースが充分にとってあるために，他人の存在を意識しないですませるのがなによりであった。図書館の係員との話も，学生同志の話声も，やっと聞きとれる程度の小声であることは，他人に迷惑をかけないということを最高の社会道徳と心得ているフランス人としては，あたりまえのことで，100人近い学生が勉強していても，全く静かなものであった。

蔵書の特色としては，この大学が第2次大戦の戦禍を蒙（こおむ）ったということで，再建にあたって連合国側から数多くの物質的援助もあって，新校舎竣（しゅん）工記念式典には，世界各国

の大学の代表者が招かれて出席したという事実は,蔵書のうえにも生かされている。これは,この大学が15世紀の創立で,百年戦役のさ中であり,イギリスのヘンリー6世,つまり当時のノルマンディー公の力が大きかったこともあって,歴史的な英仏関係の文献や資料が豊富にあることも当然であろう。外国人学生(ほとんど英米独の学生だが)のための特別の行事が行なわれるが,学内の外国学生世話委員会という公的な組織と共に,図書館の果す役割は大きい。

あるいは夏休みには,学生達が帰省して空室になった学生寮を解放して,夏季大学を開催し,各国から集まる社会人や学生達のための講座が開かれるが,これにもまた図書館は積極的に参画する。創立は古いが,戦後に生れかわった新しい大学図書館としての,一つの歩みを見せているように思った。

(じょうの・せつこ:教養部教授;フランス語)

◆ 研　　修

学術研究図書館研究集会(大阪集会)

<とき:昭和42年11月20日〜22日　ところ:大阪大学松下記念講堂>

慶応義塾大学(図書館学科)主催,文部省後援による標記研究集会は,西日本の大学図書館等において勤務歴をもつ管理者34名を集め,東京集会(12月18日〜20日)に先がけて大阪で開催された。会期中,午前中には,慶応義塾大学の訪問教授に予定されるカリフォルニア大学図書館副館長エベレット・ムーア氏による講演,午後にはこれにもとづく研究テーマ・問題点について討議がなされ,最終日に総括と,成果に対する評価が行なわれて閉会した。講演および論題は,学術研究図書館に関する,①機能,②文献情報サービス,③機械化の動向の三つであった。ムーア教授による講演と説明は,米国における大学図書館を中心に,その背景と将来的ビジョンを含め,近代的研究図書館の運営,実情,問題点に関するものであったが,わが国の実情に照らして,今後の方向および業務のあり方を示唆するものとして感銘を得るところが多かった。なお,この研究集会に,本館から西村閲覧課長,医学部分館から山川閲覧掛長,中野目録掛長が参加した。

学内図書館のたより

設備,運営の一部を改善　　——教養部分館——

去る11月下旬,教養部学生自治会より,43項目にわたる要求が教養部当局に提出された。そのうち,図書館利用に関しては,教養部分館施設改善を中心とする下記の9項目についてであった。

①座席数をもっとふやすこと。②開館時間を早く,閉館時間を遅くすること。③開架室の机と椅子を改善すること。④床の音が耳ざわりにならぬよう改善すること。⑤螢光燈を各机につけ,故障のものはすぐ修理すること。⑥内装を明るくすること。⑦一夜貸出の返却時間を遅くすること。⑧暖房装置を早急にとりつけること。⑨入館券制度に関すること。

以上の事がらについて分館長を中心に,事務長関係掛長が種々検討して,可能な限り善処することになり,下記のような処置がなされた。

①については,現在,限られた閲覧室面積(一般閲覧室357㎡,開架室231㎡,計588㎡)に266席の座席数があるが,これ以上ふやす事は不可能である。特に前期授業期間中は,学生数の6%しか利用できない状態であるが,図書館としても,現在の施設では対策の講じようがなく,早急な新館の建設に当局のご理解を期待するよりほかはない。③④⑤⑥⑧は施設についての要求であるが,④については,建物の老朽化から通行するたびに一部床のきしむ音で利用者に迷惑をかけていたので,少しでも音を消すためにゴムマットを敷くことにした。⑤と⑧については,それぞれ全部の机に螢光燈スタンドを取り付け,新しく石油ストーヴ8基を取り備えた。⑥については,開架室は40数年前,建築されたままの姿なので埃と石油ストーブのススで壁や天井が非常に汚れている。この冬休みを利用して塗装を行なうことにしているので,新年からは天井はクリーム色,壁は白色と,明るい室に変容することになっている。②⑦⑨は運営上の問題であるが,開架室図書の返却時間を午前中とし,今まで一般閲覧室の外出を認めていなかったが,10分間の一時外出券を発行することにした。

学内図書館めぐり

医学部図書館の沿革（4）　中央図書室時代　(1) その背景

本欄に掲載の「中央図書館の沿革」の(6)から(10)までは,戦後の大学図書館のきびしい道程を示すものとして，全編の中で最も感銘的な部分であろう。歴史的な意味では，まさに終戦後の虚脱と混迷を経て，やがて新しい民主化の激動期を迎えた時期に，復興と改革の歴史的現実の中で，急テンポに変貌してゆく大学図書館の生（なま）の姿が端的にとらえられている。わが医学部においても，例外ではなく，一つの新しい歴史的現実が生れている。昭和22年は前記の(7)にふくまれるが,この年の夏，医学部は中央図書館に対して，医学部中央図書室設置のための専門職員の配置を要請した。これには当時の医科大学附属図書館協議会（現医学図書館協会）への加盟準備という意図も蔵せられていたのである。まず，このために中央図書館の船越掛長（現事務部長）と山川幸雄（現分館閲覧掛長）の両氏が同年10月に東北大学医学部（当時の当番館）で開催された第18回医科大学附属図書館協議会に出席し，その総会において九大医学部の正式加盟が承認され，初めて医学部中央図書室と公称するようになった。当時の協議会加盟数は九大を加えて13館であった。20年後の今日からみれば四分の一の加盟館数である。（註：当初は九大のほか，旧七帝大の京大，北大の同時加盟が予定されていたが，事実は京大が翌23年，北大が26年に加盟している）　ところで，この加盟実現までの背景には，多少の解説が必要かとおもう。当時の医学部長は薬理学の福田得志教授(昭8：1933 ～ 昭29：1954九大在任；現九大名誉教授，鹿児島大学学長）であった。同教授の前任は千葉医科大学であり，同時に同大学附属図書館長でもあった。日本医学図書館協会35年略誌によると，その歩みを次のように時代区分している。

A．同志的結合時代<昭2：1927 ～ 昭15：1940>
B．戦時窮迫時代　<昭16：1941 ～ 昭20：1945>
C．戦後復興時代　<昭21：1946 ～ 昭31：1956>
D．新時代　<昭32：1957 ～　>

この協会は，福田先生の千葉医大図書館長時代（大正末期～昭和初期）に誕生しているばかりでなく，福田先生ご自身は，昭和4年における第3次総会の開催当番館長として，協会の新しい息吹きを見守っておられたわけである。同総会では京都府立医大，阪大，東北の3館が加盟して8館となっている。ちなみに，この前年までは，旧制「官立医科大学附属図書館協議会」創設当時の5館（新潟，岡山，千葉，金沢，長崎）のみであった。前記総会での主な議題の中に,「医学図書館の大同団結を議す」とあるが，いわばこの時の貴重なキャリアが，後年，九大医学部長時代に再び結実したわけである。ともあれ，揺籃，無名時代が終り，ようやく第3期の中央図書室時代が胎動し始めた22年11月に，中央図書館から山川（前記),八尋重久（現受入掛長）の両氏の配置換があり，タイピスト一名を加え，職員3名と，館長職に相当する監督が当時の楠教授（二内科担任）に決定した。このころ以降のことは略史的に医学部50年史（昭和28年）にも紹介されている。

◆ 来　館

延世大学校医科大学図書館(Medical School Library, Yonsei University)館長　金宗會氏 (Mr. Chong Whae Kim)

11月13・14日，資料交換等について懇談のため，医学部分館を訪問，14日午後，本館を訪問。

米国議会図書館 (Library of Congress) 東洋部長　常石道雄氏 (Mr. Warren M. Tsuneishi)
ミシガン大学アジア図書館長　鈴木幸久氏 (Mr. Yukihisa Suzuki)

11月24日，午前本館訪問，学内図書系職員と懇談，午後福岡アメリカ文化センター講堂において，米国図書館事情の講演および地域図書館関係者と懇談。

ブリティッシュ・ミュージアム (British Museum) 東洋部長　ガードナー氏 (Mr. K. B. Gardner)

11月27日午後，本館を訪問，懇談の後，文学部主催の「ブリティッシュ・ミュージアムにおける東洋の典籍について」に講師として出席。

図書館活動総合報告および関連資料一覧

自昭和37年1月
至昭和42年10月

本号（12月号）は，本学附属図書館の運営，改善に並々ならぬご尽力をいただいた北川館長のご退任の月にあたりますので，とくに，第80回附属図書館商議委員会の配布資料にもとづき，同館長の在任期間中における図書館業務活動と関連資料の一覧を特集することにいたします。

なお，関連資料には，整理しやすいように，あらかじめ一連の整理番号を与えておりますので，商議委員各位をはじめ，資料の配布を受けられた方々は，今後の改善の参考資料として利用しやすいように資料を整理保管していただければ幸いです。

図書館活動総合報告

	資料番号
Ⅰ 基本方針	
1 図書行政基本要綱の設定	No. 1
2 図書行政改善計画委員会の設置	No. 2
(1) 図書行政改善計画委員会	〃
(2) 図書館共通利用準則	〃
(3) 予算制度検討	〃
(4) 図書整理改善と蔵書構成検討	〃
(5) 文献情報および図書館活動改善	〃
3 図書館組織改善委員会の設置	No. 3
Ⅱ 図書館業務	
1 閲覧業務	
(1) 開架閲覧室の開設（昭和37年4月）	
(2) 指定図書制度の導入（昭和37年8月）	No. 4
(3) 書庫内検索の開始（昭和38年4月）	No. 5
(4) 和書参考図書室の開設（昭和38年7月）	
(5) 新刊雑誌室の開設（昭和38年9月）	No. 6
〃 拡充（昭和40年9月）	
(6) 洋書参考図書室の開設（昭和38年12月）	No. 7
(7) 常時学生に対する館外貸出の開始（昭和40年5月）	No. 8
(8) 図書館情報の発刊（昭和40年9月）	
(9) 進学学生に対する図書館オリエンテーションの実施（昭和40年10月）	
(10) 総合目録室の開設（昭和42年9月）	
2 文献複写業務	
(1) エレファックス電子複写機によるコンテンツ・シート・サービスの開始（昭和39年1月）	
(2) 富士ゼロックス電子複写機による文献複写開始（昭和40年4月）	
3 九州大学学術雑誌目録刊行	
(1) 自然科学欧文編（昭和40.9.20発行）	
(2) 人文科学欧文編（昭和41.10.10発行）	

Ⅲ 専門委員会

1 新館建築計画委員会 No. 2

第1回 (40.2.5) ～ 第5回 (40.6.2)

2 学術情報委員会準備委員会 No. 9

(1) 第1 (参考文献) 小委員会

第1回 (40.12.10) ～ 第6回 (42.3.23)

(2) 第2 (情報探索) 小委員会

Ⅳ 図書館予算の変遷

附属図書館の予算は，文部省から配当される経費，大学の振替経費および5学部の図書整理費から成り立っている。大学に対する振替経費の要求については，毎年度はじめの商議委員会に，中央図書館，医学部分館および教養部分館の予算要求書を提出し,「予算案および振替要求の説明」によって前年度の実績を報告し，新年度の重点事項をはかって承認を得ている。過去10年間の予算の変遷は別表のとおりである。

別 表

九州大学附属図書館予算の変遷

年 度	文部省経費	大学振替経費	図書整理費	計
33	円 2,891,816	円 2,197,000	円 360,000	円 5,448,816
34	2,512,344	1,520,000	480,000	4,512,344
35	2,525,752	2,095,800	355,000	4,976,552
36	2,506,984	2,327,000	285,000	5,118,984
37	3,334,851	2,292,000	445,000	6,071,851
38	8,722,725	3,761,000	370,000	12,853,725
39	8,995,019	4,096,000	590,000	13,681,019
40	9,303,508	4,864,000	620,000	14,787,508
41	9,463,590	5,358,000	826,000	15,647,590
42	10,093,704	6,495,000	956,000	17,544,704
10ヵ年計	60,350,293	35,005,800	5,287,000	100,643.093

(42.11.6)

V 九州大学附属図書館事務機構ならびに職員数

（毎年4月1日現在）

官職＼年	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	(42年11月1日)
事務部長								1	1	1	1
課長								2	2	2	2
事務長	1	1	1	1	1	1	1				
事務長補佐						1	1				
掛長	4	4	4	5	6	6	5	7	7	7	7
事務官	2	4	13	12	9	16	15	14	16	18	17
事務員	12	12	1	2	6	4	5	6	3	1	2
事務補助員	1	1	2	1	1						
常勤職員	4	3	2	2							
非常勤職員（事務補佐員）			2	1	3	2	8	11	14	16	13
技官									1	1	1
技能員								1			
用務員	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2
非常勤職員（臨時用務員）								1	1	1	1
計	27	28	28	27	29	33	38	45	47	49	46

（42.11.6）

VI 大学図書館改善のための調査・研究ならびに勧告・要望

1 大学図書館の近代化について No.10

日本学術会議第42回総会（昭和39年10月）の決議にもとづき政府に勧告。

2 文部省令「大学設置基準」の改正ならびに「大学図書館設置基準要項」の作成 No.11

（昭和40年3月大学基準等研究協議会より文部大臣に答申）

3 大学図書館施設計画要項 No.12

(1) 学校施設基準規格調査会大学図書館施設委員会（昭和38年11月～昭和40年8月）で調査・研究。

(2) 大学図書館施設研究会議（昭和40年9月～昭和41年3月）で調査・研究の上，文部大臣に答申。

4 文部省大学図書館視察委員 No.13

昭和40年，20名の視察委員が文部大臣によって発令になった。昭和40年12月1日，九州大学は4名の視察委員によって実地視察を受けた。

5 国立大学協会「大学図書館制度特別委員会国大協第39回総会」(昭和42年6月開催）で川村広島大学長（委員長）外10名の委員からなる特別委員会が設けられ，今秋から大学図書館の整備・充実に関する方策の検討が開始された。

6 全国国立大学図書館長会議の要望

(1) 図書館職員の増員（待遇改善，図書系掛長増設）

(2) 図書費の増額（指定図書費，一般図書費の増額，参考図書費の予算化）

(3) 図書館維持費の増額

定員問題については，大学内部で処理できる面もあることから，国立大学協会長にも要望書が提出された。

7 国立七大学附属図書館協議会の要望

全国国立大学図書館長会議の要望のほかに，第40次・第41次協議会で次の事項に関して要望書が提出された。

(1) 地区学術情報センターの充実。

(2) 図書館業務改善のための機械導入および貴重資料の保存措置。

(3) 特別図書購入費の継続

(4) 事務機構の拡充

Ⅶ 今後の課題

1 文部省

(1) 「大学設置基準」の省令改正の早期告示。

(2) 「大学図書館設置基準要項」の行政指導上の基準として早期適用。

(3) 「大学図書館施設計画要項」の早期適用。

(4) 図書館職員定員基準の設定および増員。

(5) 図書館予算の大巾増額。

2 九州大学

(1) 定員配分の基準設定 No.14,15,16,17

(2) 大学予算振替に関する原則の確立 No.18, 19, 20

(3) 新館建築 No.2,21,22,23

3 九州大学附属図書館図書行政組織の確立

(1) 本館・分館，部局図書室(館)の任務分担

(2) 図書整理費の問題

関 連 資 料 一 覧

No. 1　九州大学図書行政基本要綱
第56，57回商議委員会で付議決定。

No. 2　九州大学図書館体系マスタープランについて
第 75 回商議委員会に配布資料として作成。図書行政改善委員会，新館建築計画委員会等の議事を編集せるもの。

No. 3　九州大学図書館組織改善委員会
第 1 回（昭和40.1.26）～第 3 回（40.3.26）

No. 4　第54回商議委員会（昭和37.4.19）
P.6　議題 1 ：指定図書制度について

No. 5　第56回商議委員会議事録（37.6.19）
P.10　議題 4 ：(1)学生の図書検索について

No. 6　第58回商議委員会議事録（38.4.8）
P.11　3：本館に購入する雑誌の選定について

No. 7　第60回商議委員会議事録（39.2.6）
P.11　2：参考図書室の拡充計画について

No. 8　第64回商議委員会議事録（40.2.5）
P4.　議題 1 ：図書館運営規則の一部改正

No. 9　第66回商議委員会議事録（40.6.2）
P.11　議題 4 ：学術情報委員会の設立準備について

No.10　大学図書館の近代化について
第 63 回商議委員会（39.12.18開催）で配付。委員長から日本学術会議と大学図書館の近代化問題について説明。

No.11　図書館雑誌第59巻第 7 号　p.258～261
大学図書館に関する文部省令「大学設置基準」の改正ならびに「大学図書館設置基準要項」の作成について。(東京大学伊藤四十二館長)

No.12　大学図書館施設計画要項
昭和41年 4 月開催の国立大学施設講習会の説明。

No.13　大学図書館視察委員の九州大学における実地視察概要（各商議委員に報告）

No.14　昭和41年度における図書整理に要する職員数および人件費調書（41.9.30）
第73回商議委員会（41.11.7開催）配付。

No.15　国立大学附属図書館職員数基準〔案〕による職員数算定（41.10.11）
第73回商議委員会（41.11.7開催）で配布。

No.16 講座増設に伴う図書館所要人員調（42.1.20）
第74回商議委員会（42.1.27開催）で配布。

No.17 大学図書館の現状と問題点（北川館長）
（学術月報 第19巻第11号）
第77回商議委員会（42.5.26開催）で抜刷配布。

No.18 本館の予算総額に対する支出内訳および根本対策（41.7.15）
第72回商議委員会（41.7.15開催）で配付。

No.19 本館の予算項目別・支出項目別連繋一覧表（41.7.15）
第72回商議委員会（41.7.15開催）で配布。

No.20 中央図書館の役割について
第72回商議委員会（41.7.15開催）で配付。

No.21 新基準案による全学図書館面積調査
第69回商議委員会（41.5.20開催）で配付。

No.22 中央図書館新館建築計画図（案）
第69回商議委員会（41.5.20開催）で配付。

No.23 新基準案による中央図書館面積調査
第70回商議委員会（41.5.27開催）で配付。

No.24 九州大学の中央図書館における図書選択方針（案）
第80回商議委員会（42.11.6開催）で配付。

編集委員の異動およびお願い

9月の人事異動に伴い，編集委員に下記の異動がありました。

関係部局の教職員各位におかれましては，編集委員に対する記事，素材の提供方について，ご援助，ご協力のほどを切にお願い申しあげます。

中野国治（医学部分館）	医・薬・歯各学部・病院地区担当
平川友視（教養部分館）	教養部地区担当
天野二郎（教育学部）	文・教育・法・経済学部地区担当

○○あとがき○○

この図書館情報は，多くの目的と期待をになって，1965年9月に Vol.1, No.1 が，創刊されました。発刊に際しては，商議委員会の賛成はもとより，北川館長のご努力は多大だったと思います。その北川館長を送るにあたり，また Vol.3 の総まとめ号として，「利用者に対するサービスの向上」を再度認識し，「大学人のすべての方が，いつも関心をもつ」図書館となるために，努力，前進しなければとの決意も新たに，新年をむかえます。

九州大学附属図書館月報「図書館情報」Vol. 3, No. 12（通巻28号）
1967年12月25日発行・発行人 船越 惣兵衛
発行所 九州大学附属図書館・福岡市大字箱崎3576・電話代表 ㊹1101 内線5301